

## 身近なことから取り組む環境問題

岐阜市立梅林中学校 2年  
市川 未祐 (いちかわ みゆ)

「地球が無ければ、今ある世界は何一つ成立しない」

みなさんは、この言葉をどう思いますか。この言葉は、「Go Green Group」という会社の代表である山下崇さんの言葉です。「Go Green Group」では、使用済みカイロを集め、地球の水質浄化に取り組むという活動をしています。使用済みカイロの中身の鉄分や活性炭などを取り出し、加工することで、水の浄化剤の「Go Green Cube」へと変えることができます。そして、そのキューブを汚れた水の中に投入することで、水質汚濁の改善になります。

私は昨年度、この活動に出会いました。きっかけは昨年担任の先生がカイロを集め、会社に寄付するという活動を提案してくださったことです。もともと私は、環境問題について興味がありました。そして、近年、環境問題が深刻になっているのを感じ、何かできることはないかと、考えていました。だから、この活動は、私の思いを一步踏み出す活動となったのです。

そして、この活動が学級活動として始まりました。私は、みんな協力してくれるかなと少し不安でしたが、活動が始まると、クラスみんなが毎日たくさんのカイロを学校に持ってきてくれて嬉しかったです。私も親せきの人たちから使い終わったカイロを集めたり、友達に呼びかけたりしました。

また、この活動は徐々に学校の1年生全体に広がり、より多くの方がカイロを持ってきてくれるようになり、うれしかったです。毎日カイロを回収する箱の中をのぞき、たくさん集まったか見るのは、私のささやかな楽しみでした。

そしてある時、この活動を全校生徒や先生方に発信することになりました。私は全校生徒や先生方に発信するためのポスター作りと放送を任せられました。ポスター作りでは、全校生徒や先生方にこの活動の意図を知ってもらい、協力してほしいという思いを込め、色やイラストを使い、見やすく、インパクトのあるポスターを作りました。また、放送でも全校生徒や先生方が分かるような簡潔かつ、分かりやすい放送をしました。その結果、全校生徒や先生方が協力していただき、2か月間という短い期間の中で約1500個ものカイロが集まりました。学級だけで始めた活動が学年、そして全校にも広がった様子は、まるで土にまいた種から芽が出て育ったようです。そして集めたカイロを会社に送り、それが利用されることで育った植物が、大きく美しい花を咲かせるのだと思います。

この活動を通して、身近にあるものでも、一手間かければ環境問題の改善につながるということが分かりました。身近なもので「環境問題」という大きな規模のことが少しずつ改善されていく。これは素晴らしいと思います。将来新しい発見も、身近なものをもっと環境問題の改善につながってほしいと考えます。

また、この活動を通し、自分自身も成長することができました。初めは、少しでも環境をよくしたいという考えでしたが、活動が進みカイロが集まるにつれ、「もっとカイロを集めて環境問題の改善をしたい!」という気持ちが表れ、カイロを集めるのに意欲的になりました。そして今では、環境問題の役に立ったという誇らしい気持ちでいっぱいです。

近年、環境問題が深刻になっています。環境問題の原因となっているものは、「人間の行動」です。でも、環境をよりよくできるのも、やはり「人間の行動」なのです。だから一人一人が環境について考え、行動することで、環境は少しでもよくなるのではないのでしょうか。

環境問題が深刻になって困るのは私たち人間です。だから、そうならないためにも小さなことでも「環境をよくすること」を始めてみませんか？

地球がないと、今ある世界は何一つ成立しないのです。